

みよし MoMo では、1人ひとりの子どもの発達状況や家族の意向などを確認したうえで、個別支援計画を作成して支援に当たっています。支援目標の達成度を評価するため、6ヶ月に1回以上モニタリングを行い、必要に応じて個別支援計画を見直しています。

令和6年4月より、より質の高い発達支援を目指すため、支援の5領域(「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」とのつながりを明確化(見える化)した個別支援計画を作成することが義務化されたため、以下とおり支援プログラムを作成しました。

【支援目標】

子どもが将来日常生活や社会生活を円滑に営めるようにする。

子どもたち1人ひとり異なる特性や発達段階に寄り添った支援を行う。「できた」「楽しい」を積み重ね、自己肯定感を育み、自立への1歩を踏み出すことを目指す支援を行う。

【支援の5領域による支援プログラム】

1 健康・生活

(1) 基本的生活習慣の確保

日々の健康状態の維持・改善を図るため、基本的な生活スキル(睡眠・食事・排泄等)を獲得できるように支援する。また、定期的な心身の把握(利用時に必要に応じ検温、ノートにて子どもの状況の把握)を行う。

(2) 生活環境を整える

生活の中で様々な遊びを通して学習できるように、教材遊具や生活環境を整える。また、子どもたち1人ひとりの特性に配慮し、スケジュールの提示を適切に行い、自分の物の管理と公共の物の取り扱いを分かりやすく提示して、落ち着いて過ごせる環境を整える。

2 運動・感覚

(1) 運動能力の向上

ボルダリング、縄跳び、ボッチャ、ドッジボール、鬼ごっこ、サッカー、野球などの様々な運動を通して、手足、体幹を鍛えて体を動かすことが楽しくなり、運動が好きになることを目指して支援をおこなっていく。活動の中で、順番を待つ、仲間と協力するといった経験を感じられるようにし、協調性やコミュニケーション能力の向上、ルールを守る大切さを伝えていく。

(2) 戸外での活動、遊具を使った活動

様々な動きを経験することで、体の筋肉をバランス良く鍛えると共に、心肺機能、骨の形成などの発達を促していく。また十分に体を動かし遊ぶことで、体力向上を図っていく。夜もしっかり眠ることが出来るので、健全な生活リズムができる様にしていく。また遊具に上ったり、体を思い切り動かすことで、脳の前頭前野を刺激し成長を促し、脳に良い影響を与える。

(3) 感覚の統合的な活用

指先の精緻性を高めるために、折り紙やハサミを使った製作活動や、レゴ、編み物、アイロンビーズなど好きな素材を使って集中して取り組める環境を提供していく。運動刺激が脳への刺激となり、脳の活性化を図ることを視野に入れる。

3 認知・行動

(1) 学習の習慣化

空間・時間・数等の概念形成の習得を目指して、学校の宿題を中心とした学習支援を行う。学習支援は1人ひとりの能力に応じて個別に行い、学習の習慣化を図っていきながら、「分かった」が実感できるように支援をする。また、MoMo 利用時に名前や時間を記入する等、普段の生活から文字や数字に触れる経験が出来るように支援を行う。

(2) 右脳への刺激

フラッシュカードを使った学習を行い、楽しく漢字や地理、語彙力を身に付けられるように支援し、「覚えて楽しい」を目指していく。

(3) プログラミング学習

個々の特性に配慮し、それぞれが自由な発想でロボットに指示をしたり、レゴで作った車にプログラムを入れ走らせたり、タブレットでゲームを作ったりと1人ひとりの興味関心に合わせたカリキュラムで学習を行う。自信を持って取り組む中で、成功体験を積み重ね、自己肯定感を高められるように支援を行う。

4 言語・コミュニケーション

(1) 受容言語と表出言語の支援

職員からの指示や友だちの話を集中して聞き、言葉や文字等を使って相手の意図を理解できるように支援する。自分の考えを適切な言葉で正確に伝えられるようになるために、自分の好きな物や得意な事をみんなの前で発表する機会や、プログラミング学習で制作したプログラムを発表する機会を作る。また、朝の会、帰りの会などで司会進行や書記を務めたり、今日の出来事や嬉しかったことを発表する機会を作る。

(2) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得

集団遊びや集団活動での体験を通して、人との関りを円滑にする為のコミュニケーション能力の獲得を目指す。また帰りの会の際に絵本の読み聞かせなどを行い、言葉の獲得を促していく。

5 人間関係・社会性

(1) 自己の理解と自己コントロール力向上のための支援

友だちと協力してルールのある遊びなどを通して、できる事、できない事など自分の特徴を理解し、自分の気持ちや情動の調整ができる様に支援をする。

(2) 1人遊びから共同遊びへの支援

1人遊び・並行遊び・連動的遊び・ルールのある共同遊びを通して社会性の発達を向上させるように支援する。

(3) 仲間づくりと集団活動への参加の支援

集団活動に参加するための手順やルールを事前に伝え、それを理解し、遊びや集団活動に参加し仲間づくりができる様に支援する。

(4) 土曜日の活動 事業所内外活動

事業所内活動では、ハロウィンやクリスマス会、料理会などを通して季節の行事に触れる経験の場を作っていく。子どもたちが主体となり活動を進めていき、相手の気持ちを考えた行動や言動、計画を立てるなど他者との交流を促していく。事業所外活動では、様々な場所に行き、その場所に応じたルールが守れるようになることを目指し支援を行う。また様々な経験をし、興味の幅を広げていける支援を行っていく。